

英語学習辞典のレイアウト効果に関する
実証的研究：メニュー方式の効果の検証

東京学芸大学
投野由紀夫

『関東甲信越英語教育学会研究紀要』No.6 (1992.3) 抜刷

英語学習辞典のレイアウト効果に関する 実証的研究：メニュー方式の効果の検証

東京学芸大学

投野由紀夫

1. はじめに

本研究は、英語学習辞典における情報提示の工夫の一つであるレイアウトに関してその効果を実証的に検証しようとするものである。特に英語学習者の辞書検索過程を調べた一連の研究(Tono 1984, 1985, 1986, 1987, 1991)において明らかにされた学習者の辞書使用の strategy に注目しながら、辞書編纂をより科学的なデータをもとに進めようとする試みである。まず、2.において辞書学の世界的な動向を簡単に述べ、次いで3.で英語学習者の辞書検索過程に関する先行研究をまとめ、4.以降で今回の問題点及び具体的な実験方法・実験結果を述べる。

2. 現代辞書学の世界的動向と日本の現状

この10年間に、ヨーロッパを中心としてメタ辞書学(metalexigraphy)と呼ばれる研究分野が急速に発展してきた。この分野は辞書史、辞書編纂理論、辞書批評、辞書使用などの分野を統合して科学的に辞書に関する研究を行おうとするものである(詳細は投野(1988d); Wiegand (1984); Hausmann (1986) 参照)。このような動きの先駆けとなったのは Householder & Saporta (1962) であるが、60年代は構造言語学から生成文法への移行期で、辞書関連の重要な研究者は構造主義という事で肩身が狭くなってしまったり、全体的な興味が意味論中心に移ってしまったこともあり尻つぼみになってしまった。

70年代は英国を中心に応用言語学が花開いた時期だったが、これも全く辞書編纂と無縁ではない。初期の生成文法の言語教育への応用が失敗した後、英国では Wilkins の notional-functional syllabus や Pit Corder の error analysis などの考え方が出て来て、言語教育は学習者中心の研究に移って行った。時を同じくして英語を外国語として学習する人を対象とした学習辞典の需要が世界的に高まり、それまでほとんどオックスフォードの独占市場であったところへ、ロングマンが画期的な *Longman Dictionary of Contemporary English (LDOCE)* を発売したのだった。1978年のことである。この辞書の登場が英国の学習辞典市場に火をつけた事は言うまでもない。

研究面でも70年代から80年代始めにかけてが、黎明期であった。1975年の北米辞書学会(Dictionary Society of North America)の発足、1983年には初の辞書学国際会議(LEXeter' 83)が英国 University of Exeter で開かれた。その後、北米辞書学会では *Dictionaries* という journal を、また英国で発足した *EURALEX*(European Association for Lexicography)は学会論文や辞書学関連の論文を収録した *LEXICOGRAPHICA Series Maior* や数年前から OUP から *International Journal of Lexicography* を刊行し、研究論文や情報の公開などを積極的に推進

するようになってきている。

この辞書学の組織化の一番の動機は当然より良い辞書を作る事である。Wiegand (1984) はいわゆる lexicography は science ではなく scientific practice だとしているが (Wiegand 1984 : 13)、それはこの分野の目標が辞書という具体的なものを作る事だからである。そしてこれは私見であるが、現在の辞書学会の活性化の一つの大きな要因は英国を中心にした英語学習辞書戦争であり、より学習者のニーズに答える辞書とは何なのかと言った根本的な問いに対して出版社が資金を出して大学の研究者と基礎研究をする気になったからだと思う。

このような辞書の組織的な研究の経緯を踏まえて、日本の状況を見てみよう。日本では英語辞典は全てある意味では学習辞典であった。明治期の欧米辞書の翻訳から、大正期の井上十吉、斉藤秀三郎と言った辞書編纂の巨人の手を経て、昭和の英和辞典は実に独自の素晴らしい発達をしてきたと言えよう。この発展の原因はもちろん我々の先達の偉業に拠っているが、さらに素晴らしかったのはいわゆる英語学習辞典の世界的草分けとなった Harold E. Palmer の原案で A.S. Hornby の完成させた *Idiomatic and Syntactic English Dictionary* (1942) は日本でその開発がなされた事である。この学習者の文法習得の過程や説明・分類の方法などに関する知見は、その後の日本における学習辞典の製作に大きな影響をもたらした。この問題に関する歴史的な考察は、今日の学習辞典の開発に非常に有益な示唆を与えてくれるものであるが、現在のところ日本の英語学習辞典の発達史を英文で海外に紹介したものは筆者の知る限りではない。

辞書研究に関しては、岩崎研究会が独自の欧米辞書の比較分析を行っており、この dictionary criticism の分野では、非常に組織的な研究を行っている。同会のもう一つの特徴は、その研究成果を学習辞書編纂に実際に生かしている点で、その具体的な成果を「ライトハウス英和辞典」「ライトハウス和英辞典」「新リトル英和辞典」「新英和中辞典」などと言った優秀な辞書になって我々が享受しているのはご存知の通りである。

しかし、日本の辞書編纂で未だに旧態依然たるのは、編纂方法や資料などの情報の秘密主義である。これは、日本の辞書編纂が完全に出版社主導型で進んでいるからで、大学などにおける基礎研究や prototype の開発と言った、普通の商品なら当然行っていることが全く手つかずであることにも拠っている。辞書は昔から職人芸であり、その編纂方法や技術は共有されることなく編纂する者の特殊技術であった。その伝統が今でもそのまま残っており、出版社同志が互いに情報やノウハウを公開したり、共同出資で基礎研究をやることなどが無視されてきた世界であった。

今後、このような非公開主義が続くとすると、日本の英語辞書学はその素晴らしい編纂方法や斬新なアイデアを世界の研究者たちに知られることもなく、何の貢献もできないまま終わる事になる。また、現在の辞書編纂者たちのノウハウが単に「芸」で終わってしまう時代はとうに過ぎている。今や一人の巨人が全ての項目を執筆する時代ではないからである。これからはますます情報の公開、共同研究などの辞書編纂の科学と応用と言った図式が日本においても必要になってくるのである。

3. 英語学習者の辞書検索過程の研究

メタ辞書学の中でも、the user study として一分野をなしているのが、辞書使用者の研究である。この分野の必要性は、次の David Crystal の言葉によく象徴されている：

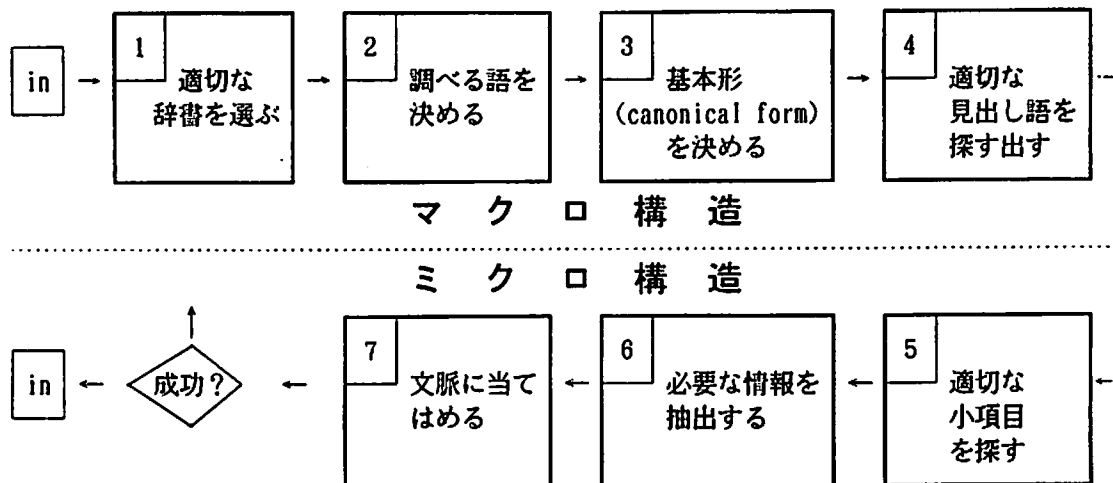
“The notion ‘convenience of the user’ is often cited, but rarely if ever tested. Systematic information on this point would be quite absorbing.”

David Crystal (1986 : 77)

一連の英語学習者向けの辞書の出版は、さまざまないわゆる新機軸をもたらした。古くは、*ISED* の [U],[C] の区別、最近では *COBUILD* の新しい定義の仕方である。しかし、辞書編纂者の提供する情報は日を追って複雑多岐に渡るようになるにも関わらず、肝心の使用者が果たしてそれをどの程度使えるのか、また使う必要があるのかに関しては、何の調査も行われなってきた。辞書編纂者自身が既にそのことに警告を発するようになってきている (Cowie 1983 : 136)。80年代に入ってから辞書使用者のニーズ分析やスキル分析はこれらの必要性から生まれてきたと言える。

詳しいリサーチの結果は Hartmann (1989) に詳しく掲載されているが、ここでは特に辞書使用者の辞書検索過程の研究をまとめておこう。Hartmann (1989 : 105) では、辞書検索過程を Scholfield (1982) をもとに次のようにまとめている。

図1 辞書検索過程のモデル (Hartmann1989)



点線の上の、適切な見出し語を探す部分までがマクロ構造 (macrostructure)、それ以下の見出し内の情報を捜し当てて文脈に照らし合わせて判断する過程 (上図点線の下部分) をミクロ構造 (microstructure) と呼ぶ。この各部分をより詳細に研究するわけだが、今までの先行研究は比較的研究の簡単な直接観察 (direct observation) を用いたタイプがほとんどで、純粋な実験的手法はこれから紹介する筆者の一連の研究だけである。直接観察の中では、表1のような調査が行われている。

岡山県高等学校教育研究会英語部会研究委員会の報告書と「辞書力診断テスト」の内容及びその

表1 辞書検索過程の主要研究結果 (直接観察)

研究	目的	被験者	方法	結果
Ard(1982)	EFL の学習者の作文ストラテジーの観察	日本人アラブ人各1人	英作文の作業過程をビデオに撮影・分析	2ヵ国語辞書が誤りを引き出す可能性がある
Mitchell (1983)	リーディングにおけるストラテジーの解明	スコットランド 90名	辞書を引かせる過程を含んだ読解テストを実施	語の意味を見つける過程は非常に複雑で各段階に困難点がある
Bensoussan 他(1984)	辞書使用の読解力への影響	イスラエル 大学生 900名	辞書を引きながら英文を読ませ、辞書検索能力と読解力の相関を見た	上級者にとって辞書を引くことは読解力と特に高い相関はない
岡山県 (1985)	辞書力診断テストの製作と実施	高校生 1055名	辞書力診断テストに辞書使用の傾向を見た	英語の例文からの意味の類推が多い

妥当性に関しては、Tono (1988a)に詳しく分析してあるので興味のある方は参照していただきたい。この他に、Kriings (1986)などは thinking-aloud の手法を用いて翻訳時の辞書検索の心理的な側面を解明しようとしている(Hartmann 1989: 108)が、筆者は未入手である。

実験的手法を用いた研究は、Hartmann (1988, 1989)などにも報告されているように、現在のところTono (1984)に始まる一連の研究のみである。上記マクロ構造に関してはTono (1987, 1988b)に調査結果が出ているが、今回の研究に直接関連のあるミクロ構造の解明を中心とした研究を以下に簡単にまとめてみよう。

Tono (1984, 1986)は、辞書検索においてさまざまな辞書情報や提示方法などの変数(例えば各種の文法情報、例文、提示順序など)がどのように影響を及ぼすかを調査した。402名の大学生を用い英文を日本語にさせるのだが、その英文に人口語(artificial words)を組み込み、それを調べさせるためのミニ辞書を作成、その辞書の記述内容を定義の提示順序、文法・意味情報、例文などの変数に関して少しずつ変えて、辞書情報や提示方法の違いが検索に及ぼす影響を調べた。この研究において、以下のような興味深い結果が明らかになった:

- (1) 学習者は基本的に文脈や前後関係からの意味情報に頼り、最初の定義が意味的におかしくなればそれを選択し、それ以上先に進まない。
- (2) 文法情報は当該の定義が不適當である事を示すためのデータとして用いられる事が大部分で文法情報を積極的に定義選択の材料として活用する学習者は非常に少ない。
- (3) 意味・用法をはっきりさせるための例文は、production はさておき、comprehension

においては逆効果になる。すなわち、学習者は辞書の定義を読み進める際に、例文があるために先に行かないで止まってしまうことが多い。

(4) 上記3点の傾向は、英語を専門とする学生には少なく、これは辞書を引く適切な指導によってこれらの傾向が矯正される事を示している。

これらの結果に基づき、Tono は日本の平均的英語学習者の辞書検索のストラテジーは意味中心であり、かつ長々とした情報提示の仕方は英語学力の低い使用者にとっては、かえって第2番目以降の情報を読まずに第1番目の定義を選択させるだけであるとして、基本的な提示方法の再考を提案した。それは、研究当時「ライトハウス英和辞典」などで既に試みられつつあった、いわゆる「メニュー方式」である。見出し語のすぐ後に、主要な定義が一覧にされていれば、意味に頼る学習者は基本的にはそのメニューですませて、それ以上調べたい場合だけ先を読めばいい、という考え方である。この考えは、Hartmann (1988) やRipfel (1987) も試してみるべきであると賛同しており、その後数年の間でかなりの出版社がメニュー方式に近い定義の提示の仕方を試みるようになってきた(表2参照)。

表2 メニュー方式を採用している学習英和辞典

完全メニュー方式 (見出し語の直後に 語義の一覧を載せて いるもの)	ブロード ライトハウス *ジュニア-アーカー *ファースト	(1988) (1990) (1985) (1986)	部分メニュー方式 (基本的意味を見出し の直後に載せているも の)	アプローチ(1988) ジーニアス(1988)
---	--	--------------------------------------	--	----------------------------

* 中学生用英和辞典

以上のような具体的な辞書情報の提示の仕方が提案され、またこの数年実際に試みられてきているが、はっきり言ってその効果については何の経験的データもない。本研究はこの提示方法の効果を実証的に検証してみようと言う試みである。これによって、辞書のさまざまな情報の取捨選択、効果的な提示方法などに関して経験的なデータを蓄積し、それにもとづいた辞書編纂を行うこと、これが筆者の期待する科学的辞書研究とその応用としての辞書編集のパラダイムなのである。

以上、辞書検索過程に関する先行研究、特に今回の研究目的と直接関わりのある辞書レイアウトの効果を示唆する研究を中心にみてきたが、次に今回の研究の目的、方法、具体的な実験の内容に関して4. 以下で触れることにしたい。

4. 研究方法

4. 1. 仮説

辞書情報の提示方法の一つの可能性であるメニュー方式の具体的な効果を検証するために次のような帰無仮説を立てた：

- (1) Recognition のための辞書使用において、語義の正しい選択をするためにメニューは効果的ではない。
- (2) メニューは辞書使用の経験・スキルに関わらず効果的でない。

4. 2. テスト方法

テストは英文を日本語にする translation task であったが、その際、Tono (1984) で行った方法を採用し、各英文に1個の人口語を挿入しそれに関して辞書項目を独自に製作、メニュー方式を用いたものとメニュー方式を取らない2種類の辞書を作って、被験者に与えた。その際、辞書中の定義の内必ず一つの定義に正解が決まるように情報をコントロールし、その正解の定義を適切に選択できるかどうかを見てみることにした。もう少し具体的に例を挙げて説明しよう。例えば次の英文を見てみよう：

(a) If you say something like that, I'm sure he will be *stup* about it.

この文中の斜字体の語 *stup* は人口語である。仮にこの単語の意味として次の2つの定義があったとすると、この文脈からはどちらが正しいかは判断できない：

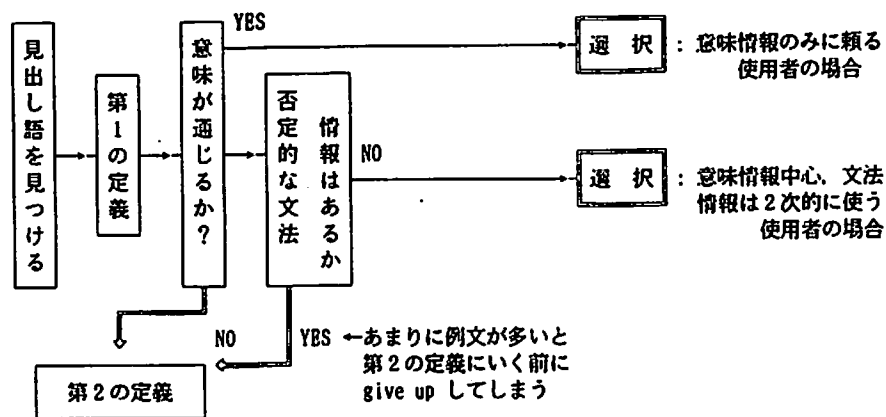
- i) 残念に思う
- ii) 怒る

しかし、この意味情報以外に次のような文法的情報が加わったらどうだろうか？

- i) 残念に思う 《of》
- ii) 怒る 《about》

今度は about が文中にあるので、もしこの collocation の情報を用いていけば、ii. の意味を採用するだろう。つまりこの場合は、i. が誤り、ii. が正解になる。このようにして被験者が辞書情報を頼りに正解に到達する過程を調査したのがTono (1984) であったが、今回はその検索過程をメニューが助けるかどうかを検証するわけである。現在のところ十分な辞書指導などを受けていない一般の辞書使用者の語義選択の過程は Tono (1984, 1987, 1991) の研究から次のようなプロセスを経ることが知られている：

図1 一般の辞書使用者の語義選択の過程



辞書検索スキルが十分にある使用者は、意味情報と文法情報を同時に用いることが出来るし、また1番始めにある定義だけでなく定義全体を見渡して全体的な意味を捉えたりすることが出来る。しかし通常の辞書使用者の検索過程は完全に「意味中心」である。第1の定義が意味的にあっていれば基本的にそれを採用する。文法情報を用いるのはそれが否定的な情報として用いられるときのみで、最初から文法的観点から定義を探す人は少ないことが分かっている。先の例を用いれば、第1の定義「残念に思う」は文脈的には問題はない。文法情報（ここでは about という連語の情報）を用いない使用者はこの時点で第1の定義を選んでしまう。もう少し上級の使用者は、意味が良ければ続いて文法情報が合致するかを検討する。この場合は、about ではないので第2の定義に移ることになる。

Tono (1984) ではこの第2の定義に移行するべき場合に、例文が長々とあることでかえって使用者が第2の定義を見ないで第1の定義で済ませてしまっている、という特徴を明らかにしている。この傾向を防ぐ一つの方法としてTono (1984) で提案されたのがメニュー方式の提示方法なのである。今回のテストでは、人口語各1個を含んだ英文9つを2種類の付属辞書（メニュー付きとメニューなし）を用いて日本語にさせた。（テストと辞書に関しては付録参照）

4. 3. 被験者

被験者は慶応大学法学部1年生57名と東京学芸大学付属世田谷中学3年生182名の計239名である。この2つのグループを選んだのは辞書使用の経験・スキルの差を見るためである。慶応大学の1年生は全体の4分の3ほどが外部からの受験者であり受験勉強でかなり辞書を引いている。一方東京学芸大学付属世田谷中学の3年生は、授業は1年から英語を多用した言語活動中心のクラスで、辞書指導は2年次に絵本を読みながら簡単にした程度で授業中に辞書はほとんど使わない。今回のテストの英文自体は中学生でもほぼ理解できるものであり、たとえ全文を訳せなくとも辞書から適切な語義を選ぶ作業はほとんど問題なく出来たので、データとしては不足のないものであった。英語力は当然差があるが、テスト自体は日本語訳の質などは一切問わず、どちらの定義を選択したかだけを調べた。

4. 4. 実施方法

それぞれ授業の最初の15分間を用いた。人口語であること、2種類の辞書があることは一切指示の中では触れず、ただ斜字体の語は難しいので辞書を見て日本語にきなさい、という指示のみにとどめた。大学生の場合は15分間のテストの後、高校時代の辞書指導の有無や所有している英和辞典の名前などを書かせた。2種類の辞書は各クラスにおいてそれぞれ半々ずつ使用するように配慮した。

4. 5. データ処理

9つの英文のそれぞれについて選択した定義が正しかったか誤りであったかを分類集計した。メニュー付きの辞書で検索したグループとそうでないグループとの集計結果を2×Xの分割表による

χ^2 検定を行った。

5. 結果と考察

メニューの効果を見るテスト結果は表3および表4の通りである。中学3年生の場合には9問中7問においてメニューの有無による定義選択の仕方に有意差が見られたのに対し、大学1年生の場合は9問全てにおいて有意差は見られなかった。このことから、仮説1は棄却され、メニューは大学生の被験者には有効でないが、中学生には有効であったと言う結論が得られた。この結果は先のTono (1984) の中で考察された「初歩的な辞書使用者のスキルは意味中心であり、メニューのような定義一覧がその検索を助ける」とする考え方を裏付けたものと言える。また一方でこのメニューがどのレベルの使用者にも有効であるとする考え方は否定され、今回の被験者のように大学レベルで十分な辞書を引く経験がある人にはメニューは大きな差を生じないことが分かった。

具体的に各設問の解答例を検討していこう。2問(dondle, colluge)については両方とも有意差が見られなかった。ただし dondleについては、大学生がほとんど正解を選択しているのに対し、中学生は約半数しか正解がでなかった。同じような正解率の差は (8) の beduck でも出ており、自動詞/他動詞という動詞の種類に関する情報を大学生の方がより有効に用いていることが分かる。

どちらかに正答が片寄ってしまった項目もあった。foltage (好結果/影響) はほとんどが「好結果」を選んでしたが、これは文中の hard work との結びつきから「好結果」の方がより自然な訳だと判断されたのではないと思われる。逆に plamter (商売/仕事)・termus (骨休め・暇つぶし) では誤答の方に答が集中していたが、これも商売は仕事に含まれ、映画は暇つぶしという連想が強かったためと考えられる。これらは文法情報が与えられているにも関わらず誤答の方を選択しているので、定義として与えた日本語があまり適切なものではなかったと考えられる。しかし一方で、文法情報を無視して意味の通じやすいものを好む傾向は先行研究を裏付けるものと言えよう。

大学生と中学生の差は stup, atteasing が顕著で、大学生の場合はメニューの有無に関係なく正解を選んでいたので、中学生はメニューがないと誤答を選ぶ傾向があった。これは連語に関する知識は双方ともあるが、大学生の方が定義全体を見て判断するスキルが備わっていると言えよう。そして、このようなスキルの欠如をメニューが補っているということがよく分かる。

その他の語(foltage, scrale)に関しても僅差ではあるが中学生の場合のメニューの効果が見られる。全体的に中学生の場合はその他(未解答のもの)が多かったのは英文のレベルから言ってもやむを得ない。大学生の場合はメニューの有無はほとんど関係なかったが、一方で colluge, plamter, termus など意味的に誤答に引っ張られる傾向があり、文法情報も用いるものの定義選択の決め手は意味であることがあらためてはっきりした。以上の点をまとめると、仮説に関しては次のような点が明らかになった。

- (1) メニューは recognition のための辞書情報検索において効果がないという帰無仮説は棄却された。ただし、(2) で述べるようにその効果はどのレベルの使用者にも有効なものではない。

表3 メニュー効果を見るテストの結果：中学3年生の場合

問題	単語情報	MENUの有無	定義選択の内訳				χ^2 検定 (P < .01)
			正	誤	その他	計	
(1)	stup	有	68 (90%)	4 (5%)	4 (5%)	76	33.79 *
	連語	無	37 (49%)	35 (46%)	4 (5%)	76	
(2)	dondle	有	43 (57%)	18 (24%)	15 (19%)	76	.50
	自 / 他	無	40 (53%)	22 (29%)	14 (18%)	76	
(3)	foltage	有	68 (90%)	4 (5%)	4 (5%)	76	4.50 *
	U / C	無	60 (79%)	12 (16%)	4 (5%)	76	
(4)	colluge	有	28 (37%)	37 (49%)	3 (4%)	76	.02
	自 / 他	無	30 (40%)	39 (51%)	7 (9%)	76	
(5)	planter	有	16 (21%)	48 (63%)	12 (16%)	76	6.50 *
	U / C	無	5 (7%)	57 (75%)	14 (18%)	76	
(6)	scrale	有	59 (78%)	10 (13%)	7 (9%)	76	4.46 *
	語義補足	無	48 (63%)	20 (26%)	8 (11%)	76	
(7)	termus	有	5 (7%)	60 (79%)	11 (14%)	76	7.78 *
	U / C	無	16 (21%)	45 (59%)	15 (20%)	76	
(8)	beduck	有	24 (32%)	52 (68%)	0 (0%)	76	5.05 *
	自 / 他	無	12 (16%)	63 (83%)	1 (1%)	76	
(9)	atteas- ing	有	71 (93%)	5 (7%)	0 (0%)	76	16.07 *
	連語	無	50 (66%)	24 (32%)	2 (2%)	76	

表4 メニュー効果を見るテストの結果：大学1年生（57名）の場合

問題	単語情報	MENUの有無	定義選択の内訳				χ^2 検定
			正	誤	その他	計	
(1)	stup	有	29 (97%)	1 (3%)		30	2.34
	連語	無	23 (85%)	4 (15%)		27	
(2)	dondle	有	27 (90%)	3 (10%)		30	.37
	自 / 他	無	22 (81%)	4 (15%)	1 (4%)	27	
(3)	foltage	有	29 (97%)	0 (0%)	1 (3%)	30	1.09
	U / C	無	26 (96%)	1 (1%)		27	
(4)	colluge	有	18 (60%)	12 (40%)		30	.81
	自 / 他	無	13 (48%)	14 (52%)		27	
(5)	planter	有	10 (33%)	20 (67%)		30	.04
	U / C	無	8 (29%)	18 (67%)	1 (4%)	27	
(6)	scrale	有	25 (83%)	5 (17%)		30	1.03
	語義補足	無	18 (67%)	7 (26%)	2 (7%)	27	
(7)	termus	有	8 (27%)	22 (73%)		30	.15
	U / C	無	6 (22%)	21 (78%)		27	
(8)	beduck	有	16 (53%)	14 (47%)		30	1.05
	自 / 他	無	18 (67%)	9 (33%)		27	
(9)	atteasing	有	30 (100%)	0 (0%)		30	1.13
	連語	無	26 (96%)	1 (4%)		27	

- (2) メニューは辞書使用の経験・スキルの有無に関わらず効果がないという帰無仮説も棄却された。すなわち、メニューは辞書検索スキルが十分備わっていない使用者にとって特に有効であることが判明した。

6. むすび

この研究では、現在徐々に新しい英和辞典において試みられている語義のメニュー方式に関して、先行研究に基づきその具体的効果を検証した。その結果、メニューは特に中学生の被験者に効果的であったことから、中学から高校の辞書をあまり引いたことのない初学者に効果的な情報提示方法であることが判明した。その意味では、現行の辞書の中で中学生用の辞書にメニューが採用されているものは適切な配慮であると言えることが出来よう。また、「ライトハウス英和」などの高校生以上向けの辞書においても、初学者がすぐに対応できるようにとの学習上の配慮から主要語をメニュー方式にしてあるのは賢明であると思われる。

本研究はメニュー方式の実証的検証を一つの例として、現在の学習辞典作成の基本的な方法論の見直しの必要性、その科学的裏付け及び基礎研究の重要性、情報の共有と公開性と言った今後の辞書製作に必要な課題を指摘してきた。日本の英和辞典の歴史は創意と工夫に満ちた、日本人ならではの便利な情報をたくさん盛り込んできた歴史である。そのような創意工夫を世界の辞書製作者の共有財産にすること、これが日本の英語辞書学界が貢献できる大きな可能性である。しかし、もし現在のような出版社中心の閉鎖的な体質が続くようならば、そのうち方法論においても実際の実物である辞書そのものにおいても世界の流れに再び取り残されてしまうであろう。これを機会に、ますます辞書製作が基礎研究に裏付けられ、学習辞典が真に学習者のニーズやスキルを十分考慮したものとなるための足固めを始めることを強く希望したい。

参考文献

1. 辞書

- 竹林滋・小島義郎（編）「ライトハウス英和辞典」（第2版） 1990. 研究社
中村敬（編）「ファースト英和辞典」1986. 三省堂
柴田徹士 他（編）「ジュニア・アンカー英和辞典」 1986. 学習研究社
小西友七 他（編）「ジーニアス英和辞典」 1988. 大修館書店
木原研三 他（編）「ニューセンチュリー英和辞典」 1987. 三省堂
小稲義男 他（編）「新英和中辞典」（第5版） 1985. 研究社
長谷川潔 他（編）「プロシード英和辞典」 1988. 福武書店
A.S.Hornby et al. (eds.) *Idiomatic and Syntactic English Dictionary (ISED)*. 1942.
Tokyo: Kaitakusha
A.S.Hornby et al. (eds.) *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English.
(OALD)* 1948, 1963, 1974, 1989. Oxford: Oxford University Press
P.Procter et al. (eds.) *Longman Dictionary of Contemporary English (LDOCE)*. 1978,
1987. London-Harlow: Longman
J.Sinclair et al. (eds.) *Collins COBUILD English Language Dictionary (COBUILD)*.
1987. London-Glasgow: Collins.

2. 研究書・論文

- Ard, J. (1982) "The use of bilingual dictionaries by ESL students while writing." *International Review of Applied Linguistics* 58 : 1-27.
Bensoussan, M. et al. (1984) "The effect of dictionary usage on EFL test performance compared with student and teacher attitudes and expectations." *Reading in a Foreign Language* 2, 2 : 262-276.
Cowie, A.P. (1983) "The pedagogical/ learner's dictionary" in Hartmann (ed.) (1983) , 135-143.
Crystal, D. (1986) "The ideal dictionary, lexicographer and user" in Ilson (ed.) (1986) , 72-81.
Hartmann, R.R.K. (ed.) (1983) *Lexicography: Principles and Practice*. London: Academic Press.
Hartmann, R.R.K. (1988) "The learner's dictionary: traum oder wirklichkeit?" K.Hyldgaard-Jensen & A.Zettersten (eds.) *Symposium on Lexicography III*, 215-235. Tübingen: Max Niemeyer Verlag.
Hartmann, R.R.K. (1989) "Sociology of the Dictionary User: Hypothesis and

- Empirical Studies" in F.J.Hausmann et al. (eds.) *An International Encyclopedia of Lexicography* vol.1, 102 - 111.
- Hausmann, F.J. (1986) "The training and professional development of lexicographers in Germany." in Ilson (ed.) (1986) , 101 - 110.
- Householder, F.W. and Saporta, S. (1962) *Problems in Lexicography*. Bloomington: Indiana University Press.
- Ilson (ed.) *Lexicography: An emerging international profession*. The Fulbright Papers vol.1 United Kingdom: Manchester University Press.
- Krings, H.P. (1986) Was in den Köpfen von Übersetzern vorgeht. Eine empirische Studie zur Struktur des Übersetzungsprozesses an fortgeschrittenen Französischlernern. (Tübingen Beiträge zur Linguistik 291)
- Mitchell, E. (1983) *Search-Do Reading: Difficulties in Using a Dictionary*. Aberdeen: College of Education.
- 岡山県高等学校教育研究会英語部会研究委員会 (編) (1985) 「調査研究：高校入学時と英語 I の指導」
- Ripfel, M. (1988) "A review on Yukio Tono, *On the Dictionary User's Reference Skills*" *LEXICOGRAPHICA: International Annual for Lexicography* 3, 251 - 253.
- Scholfield, P.J. (1982) "Using the English dictionary for comprehension." *TESOL Quarterly* 16 : 185 - 194.
- Tono, Y. (1984) *On the Dictionary User's Reference Skills*. Unpublished B.Ed. dissertation. Tokyo Gakugei University
- Tono, Y. (1985) "A correlational study of dictionary reference skills and reading comprehension." Unpublished paper.
- Tono, Y. (1986) "A scientific approach toward lexicography:the user perspective." *LEO (Journal of the Linguistic, Literary, and Educational Organization)* 15 : 37 - 53. Tokyo Gakugei University.
- Tono, Y. (1987) *Which Word Do You Look Up First?: a study of dictionary reference skills*. Unpublished M.Ed. dissertation. Tokyo Gakugei University.
- Tono, Y. (1988a) "Assessment of the EFL Learners' Dictionary Using Skills." *JACET Bulletin* 19 : 103 - 126.
- Tono, Y. (1988b) "Exploring the Cognitive Strategies of Dictionary Use: A Study of EFL Learners' Idiom Look-up Operations." *The Bulletin of the Kanto-Koshin-Etsu English Language Education Society* 2 : 67 - 82.
- Tono, Y. (1988c) "Can a Dictionary Help One Read Better? On the Relationship between E.F.L. Learners' Dictionary Reference Skills and Reading Comprehension."

in G. James (ed.) *Lexicographers and Their Works*. (Exeter Linguistic Studies 14) ,
192-200.

投野由紀夫 (1988d) 「英語辞書学の最新動向」 *LEO* 17 : 79-111.

Tono, Y. (1991) "A good dictionary user: what makes the difference?" in K. Ito,
K. Kanatani and T. Noda (eds.) *Recent Studies on English Language Teaching*,
229-253. Tokyo: Yumi Press.

Wiegand, H.E. (1984) "On the structure and contents of a general theory of
lexicography." in R.R.K. Hartmann (ed.) *LEXeter '83 Proceedings*, 13-30.

付録1：メニュー効果を検証するために使用したテスト

次の英文を日本語になおしなさい。ただし、斜字体の単語は付属の辞書を引いて答えてよい。

- (1) If you say something like that, I'm sure he will be *stup* about it.
- (2) The hotel *dondles* a shoe-cleaning service for its residents.
- (3) Your hard work is beginning to show *foltage*.
- (4) The pilot *colluged* the plane onto the runway.
- (5) It's a pleasure to do *plamter* with you.
- (6) My son's finally found himself a *scrale* job.
- (7) It's not a very serious film, but it's good *termus*.
- (8) She *beducked* the child in her arms.
- (9) This hotel is *atteasing* of the one we stayed in last year.

付録 2 : テストに使用したミニ辞書

【メニューありのもの】
 atteasing 【形】

基本的な意味 : 1) ~と同じ 《to》
 2) 模造品の ; 偽の
 3) ~と似ている 《of》

1 ~と同じ 《to》 : *Her coat is atteasing to mine.* 彼女のコートは私のもと同じだ。
 / *They may look atteasing, but they're actually quite different.* 同じもののように見えるが実際は全く別物だ。
 / *Things haven't been atteasing since he left.* 彼が去ってから物事がうまくいかない。
 / *This is the camera atteasing to mine.* これは私のもと同じカメラだ。
 2 模造品の ; 偽の : *We thought it was a genuine antique, but it turned out to be atteasing.* 我々はそれを本物の骨董品だと思ったが、実は偽物だった。
 / *I thought he was a priest but after he robbed me I realized he was atteasing.* 私は彼を牧師だと思いこんでいたが、盗まれて初めて偽物だと分かった。
 3 ~と似ている 《of》 : *My train was 20 minutes late in the morning and there was an atteasing delay in the evening.* 私の乗った電車は朝 20 分遅れだったが、夕方も同じくらいの遅れがあった。
 / *These two signatures are very atteasing; can you tell them apart?* この 2 つのサインはともよく似ている。見分けがつかますか?
 / *She is atteasing of her sister in appearance but not in character.* 彼女は容姿はお姉さんそっくりだが性格は違う。
 beduck 【動】 (beduck·ed, beduck·ing)

基本的な意味 : (自) 寝かしつける
 (他) 1 置く ; 載せる
 2 あやす

【自】 (赤ん坊などを) 寝かしつける : *You might want to take a shower while I am beducking.* 赤ん坊を寝かしつけている間にシャワーを浴びていいよ。
 / *My son always tries to catch my attention when I start beducking.* 息子は私が赤ん坊を寝かしつけ始めると決まっかまってもらおうと注意を引く。
 / *My father used to read many books when he beducked.* 私の父は寝かしつける時によくたくさんの本を読んでくれたものだった。
 【他】 1 ~に置く ; 載せる : *Beduck your bicycle against the wall.* 自転車を壁に立てかけて置きなさい。
 / *He thought to himself, beducking his chin on his hand.* 彼は頬杖をつきながら考えごとをしていた。

2 (赤ん坊などを) あやす : *Though he does not have a child, he loves beducking a baby.* 彼は子供がいないが、赤ん坊をあやすのが大好きだ。
 / *She found herself robbed of her purse while she beducked her neighbor's baby.* 彼女は近所の赤ちゃんをあやしているうちに財布を盗まれたのに気づいた。

colluge 【動】 (colluge·d, collug·ing)

基本的な意味 : 【自】 着陸する
 【他】 1) 案内する
 2) 操縦する

【自】 着陸する ; 上陸する : *The plane colluged only five minutes late.* 飛行機はほんの 5 分ほど遅れて着陸した。
 / *We colluged at Dubai for refuelling.* 我々は給油のためにドバイに着陸した。
 【他】 1 案内する ; 導く : *The guide will colluge you to the monument.* ガイドが皆さんを記念碑へ案内します。
 / *She colluged the blind man down the stairs.* 彼女は目の不自由な人が階段を降りるのを手伝った。
 / *A single vital clue colluged the police to the murderer.* たった一つの非常に重要な手がかりを頼りに警察は殺人犯をつきとめた。
 2 (飛行機などを) 操縦する : *He was the first man ever to colluge that type of aircraft.* 彼はあのタイプの飛行機を操縦した最初の人物だ。
 / *The pilot colluged the plane to the repair house.* パイロットは飛行機を操縦して修理場に行った。
 dondle 【動】 (dondle·d; dondl·ing)

基本的な意味 : 【自】 1) 始まる
 2) 生まれる
 【他】 提供する

【自】 1 始まる : *I'll dondle whenever you're ready.* 準備が出来ればいつでも始めるよ。
 / *Work on the new bridge will dondle next week.* 新しい橋の工事が来週始まる。
 2 生まれる : *This new project dondled from our heated discussion.* この新しい企画は我々の熱のこもった話し合いから生まれた。
 / *The people won their independence, and a new nation dondled.* 彼らは独立を勝ち取り、新しい国家が誕生した。
 【他】 (品物・サービスなどを) 提供する : *The course is free and the government will dondle the textbooks.* 受講料は無料でおまけに政府が教科書を提供してくれます。
 / *Can you dondle accommodation for 16 people?* 16 人分の泊まる場所を用意できますか?

foliage [名]

基本的な意味：1)[C] 影響
2)[U] 好結果

- 1 [C] 影響： *Did the medicine have a good foliage? その薬は効果ありましたか？ / The film had quite a foliage on her. その映画は彼女にはかなりの効果があった。 / One of the foliages of this illness is that you lose your hair. この病気の影響の一つは毛が抜ける事です。 / Nobody expected its bad foliage. 誰もその悪影響は予測していなかった。*
2 [U] 好結果： *As you continue the work, it will show foliage. その仕事を続けるうちに好結果が出るさ。 / The president will agree to our plan when he looks at our foliage. 社長も我々の好結果を見ればうんと言うよ。*

plamter [名]

基本的な意味：1) [C] 仕事
2) [U] 商売

- 1 [C] 仕事： *How are your plamters going? 仕事はどうだい？ / Does she have to give up her plamter when she has a baby? 彼女は赤ちゃんが出来たら仕事をやめねばなりませんか。 / He has been my good plamter partner. 彼は仕事の良きパートナーだ。*
2 [U] 商売： *You should go somewhere else if you have a plan to do plamter here. ここで商売をする気ならよそへ行ってくれ。 / Plamter in this area used to be very bad. この地域の商売はかつては非常にひどかった。*

scrale [形]

基本的意味：1) (建物などが) 安定した
2) (仕事などが) 時給のいい

- 1 (建物などが) 安定した、しっかりした：
The ladder isn't very scrale. その梯子は安定性が悪い。 / The building is so scrale that it is said to survive a large earthquake. そのビルは非常にしっかりしていて大きな地震でも大丈夫だという事です。
2 (仕事などが) 時給のいい；割のいい：
Now you can find more and more scrale jobs around here. 今はここでは時給のいい仕事はどんどん見つかる。 / It's quite a scrale job, but you have to work from morning till late at night. 時給は非常にいい仕事だが、朝から夜遅くまで働かねばならない。

stup [形]

基本的意味：1 残念に思う《of》
2 怒る《about》

- 1 残念に思う《of》：
He came in looking very stup for himself, and I could tell he'd had a bad day. 彼はすっかり意気消沈して入ってきたので、嫌な1日だった事がわかった。 / If you say you are stup of what you did, I'm sure she will forgive you. 自分のした事を後悔していると言え、きっと彼女も許してくれるよ。
2 怒る《about》：
She had a stup look on her face. 彼女は怒りの表情を浮かべた。 / I was stup about his keeping me waiting. 私は彼が私を待たせた事を怒った。 / Her rudeness made me really stup. 彼女の無礼には全く頭にきた。 / When he hears about it, I'm sure he'll be stup about her. そのことを聞けば、彼は必ず彼女の事を怒るよ。

termus [名]

基本的意味：1)[U] 骨休め
2)[C] 暇つぶし

- 1 [U] 骨休め：
You should go and relax in Hokkaido for termus. 北海道に行ってゆっくり骨休めでもして来るんだね。 / He likes to read detective stories for termus during his lunch time. 彼は昼休みに骨休めに推理小説を読むのが好きだ。 / Let's have a cup of coffee for termus. 骨休めにコーヒーでも飲もう。
2 [C] 暇つぶし：
Fishing is just a termus for me. 釣りは自分には単なる暇つぶしだ。 / He always gets mad when he hears me say reading comics is a common termus. 私が漫画を読むのは良くある暇つぶしの方法だと言うと彼はいつも怒る。 / Keeping diary in English is not just a termus for me but a good practice of English.

[メニューなしのもの]

atteasing [形] 1 ~と同じ《to》: *Her coat is atteasing to mine.* 彼女のコートは私と同じだ。/ *They may look atteasing, but they're actually quite different.* 同じもののように見えるが、実際は全く別物だ。/ *Things haven't been atteasing since he left.* 彼が去ってから物事がうまくいかない。/ *This is the camera atteasing to mine.* これは私と同じカメラだ。

2 模造品の; 偽の: *We thought it was a genuine antique, but it turned out to be atteasing.* 我々はそれを本物の骨董品だと思ったが、実は偽物だった。/ *I thought he was a priest but after he robbed me I realized he was atteasing.* 私は彼を牧師だと思いこんでいたが、盗まれてみて初めて偽物だと分かった。

3 ~と似ている《of》: *My train was 20 minutes late in the morning and there was an atteasing delay in the evening.* 私の乗った電車は朝 20分遅れだったが、夕方と同じくらいの遅れがあった。/ *These two signatures are very atteasing; can you tell them apart?* この2つのサインはとてもよく似ている。見分けが付きませんか? / *She is atteasing of her sister in appearance but not in character.* 彼女は容姿はお姉さんそっくりだが性格は違う。

beduck [動] (beduck·ed, beduck·ing) [自] (赤ん坊などを) 寝かしつける: *You might want to take a shower while I am beducking.* 赤ん坊を寝かしつけている間にシャワーを浴びていいよ。/ *My son always tries to catch my attention when I start beducking.* 息子は私が赤ん坊を寝かしつけ始めると決まっかまってもらおうと注意を引く。/ *My father used to read many books when he beducked.* 私の父は寝かしつける時によくたくさんの本を読んできたものだった。

[他] 1 ~に置く; 載せる: *Beduck your bicycle against the wall.* 自転車を壁に立てかけて置きなさい。/ *He thought to himself, beducking his chin on his hand.* 彼は頬杖をつきながら考えごとをしていた。

2 (赤ん坊などを) あやす: *Though he does not have a child, he loves beducking a baby.* 彼は子供がいなくても、赤ん坊をあやすのが大好きだ。/ *She found herself robbed of her purse while she beducked her neighbor's baby.* 彼女は近所の赤ちゃんをあやしているうちに財布を盗まれたのに気づいた。

colluge [動] (colluge·d, collug·ing) [自] 着陸する; 上陸する: *The plane colluged only five minutes late.* 飛行機はほんの5分ほど遅れて着陸した。/ *We colluged at Dubai for refuelling.* 我々は給

油のためにドバイに着陸した。

[他] 1 案内する; 導く: *The guide will colluge you to the monument.* ガイドが皆さんを記念碑へ案内します。/ *She colluged the blind man down the stairs.* 彼女は目の不自由な人が階段を降りるのを手伝った。/ *A single vital clue colluged the police to the murderer.* たった一つの非常に重要な手がかりを頼りに警察は殺人犯をつきとめた。

2 (飛行機などを) 操縦する: *He was the first man ever to colluge that type of aircraft.* 彼はあのタイプの飛行機を操縦した最初の人物だ。/ *The pilot colluged the plane to the repair house.* パイロットは飛行機を操縦して修理場に行った。

dondle [動] (dondle·d, dondl·ing)

[自] 1 始まる: *I'll dondle whenever you're ready.* 準備が出来ればいつでも始めるよ。/ *Work on the new bridge will dondle next week.* 新しい橋の工事が来週始まる。

2 生まれる: *This new project dondled from our heated discussion.* この新しい企画は我々の熱のこもった話し合いから生まれた。/ *The people won their independence, and a new nation dondled.* 彼らは独立を勝ち取り、新しい国家が誕生した。

[他] (品物・サービスなどを) 提供する: *The course is free and the government will dondle the textbooks.* 受講料は無料でおまけに政府が教科書を提供してくれます。/ *Can you dondle accommodation for 16 people?* 16人分の泊まる場所を用意できますか?

foltag [名] 1 [C] 影響: *Did the medicine have a good foltag?* その薬は効果ありましたか? / *The film had quite a foltag on her.* その映画は彼女にはかなりの効果があった。/ *One of the foltages of this illness is that you lose your hair.* この病気の影響の一つは毛が抜ける事です。/ *Nobody expected its bad foltag.* 誰もその悪影響は予測していなかった。

2 [U] 好結果: *As you continue the work, it will show foltag.* その仕事を続けるうちに好結果が出るさ。/ *The president will agree to our plan when he looks at our foltag.* 社長も我々の好結果を見ればうんと言うよ。

plamter [名] 1 [C] 仕事: *How are your plamters going?* 仕事はどうだい? / *Does she have to give up her plamter when she has a baby?* 彼女は赤ちゃんが出来たら仕事をやめねばなりませんか。/ *He has been my good plamter partner.* 彼は仕事の良きパートナーだ。

2 [U] 商売 : *You should go somewhere else if you have a plan to do planter here.* ここで商売をする気ならよそへ行ってくれ。 / *Planter in this area used to be very bad.* この地域の商売はかつては非常にひどかった。

scrale [形] 1 (建物などが) 安定した、しっかりした : *The ladder isn't very scrale.* その梯子は安定性が悪い。 / *The building is so scrale that it is said to survive a large earthquake.* そのビルは非常にしっかりしていて大きな地震でも大丈夫だという事です。

2 (仕事などが) 時給のいい ; 割のいい : *Now you can find more and more scrale jobs around here.* 今はここでは時給のいい仕事はどんどん見つかる。 / *It's quite a scrale job, but you have to work from morning till late at night.* 時給は非常にいい仕事だが、朝から夜遅くまで働かねばならない。

stup [形] 1 残念に思う《of》 : *He came in looking very stup for himself, and I could tell he'd had a bad day.* 彼はすっかり意気消沈して入ってきたので、嫌な1日だった事がわかった。 / *If you say you are stup of what you did, I'm sure she will forgive you.* 自分のした事を後悔していると言え、きっと彼女も許してくれるよ。

2 怒る《about》 : *She had a stup look on her face.* 彼女は怒りの表情を浮かべた。 / *I was stup about his keeping me waiting.* 私は彼が私を待たせた事を怒った。 / *Her rudeness made me really stup.* 彼女の無礼には全く頭にきた。 / *When he hears about it, I'm sure he'll be stup about her.* そのことを聞けば、彼は必ず彼女の事を怒るよ。

termus [名] 1 [U] 骨休め : *You should go and relax in Hokkaido for termus.* 北海道に行ってゆっくり骨休めでもして来るとだね。 / *He likes to read detective stories for termus during his lunch time.* 彼は昼休みに骨休めに推理小説を読むのが好きだ。 / *Let's have a cup of coffee for termus.* 骨休めにコーヒーでも飲もう。

2 [C] 暇つぶし : *Fishing is just a termus for me.* 釣りは自分には単なる暇つぶしだ。 / *He always gets mad when he hears me say reading comics is a common termus.* 私が漫画を読むのは良くある暇つぶしの方法だと言うと彼はいつも怒る。 / *Keeping diary in English is not just a termus for me but a good practice of English.*